



北海道滝川高等学校

学校だより

平成 27 年 2 月 27 日

第 3 号

〒073-0023

滝川市緑町 4 丁目 5 番 77 号

電 話 (0125) 23-1114

F A X (0125) 23-1115

「評価から計画へ」

校長 後 藤 寿 樹

平成 26 年度も残り 1 ヶ月となりました。この 1 年の保護者の皆様はじめ地域の皆様からの親身のご支援、ご助言に心から感謝申し上げます。学校では、今年度の教育活動の自己評価、関係者評価を経て次年度の教育計画づくりに取りかかっているところです。

今年度は「地域立脚の教育実践」をスローガンに 4 つの重点目標を掲げて取り組みました。①「確かな学力と自ら探究する意欲を育てる」では、公開授業による授業改善や週末課題による家庭学習の定着、土曜活用、SSH の取組を通して 1 時間 1 時間の授業の質や量の確保・向上に努めました。②「豊かな感性と明るく思いやりの心を育てる」では、学校祭、体育祭や国際交流、ボランティア活動に取り組みました。③「高い志と未来を切り拓く力を育てる」では、面談指導、進路に関する講師を招いての講演やインターンシップ等のキャリア教育を通して、目標と目的の明確化に努めました。④「広い社会性とたくましい心身を育てる」では、挨拶運動、自転車の交通ルール遵守啓発活動等を通してその育成を図りました。達成不十分となった課題は重点化・構造化を図り、教職員一丸となって解決に務めます。

学校評議員からは、生徒指導の改善充実や SSH の全校的取組による学校の活性化の指摘がありました。保護者の皆様からの声も踏まえ、生徒の健全育成と進路実現に専門職として全力で励みますので、平成 27 年度も変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いします。

保護者アンケート「自由記述欄」の主なご質問・ご意見と本校からの回答

《授業力の向上などに関するご意見》

「先生方の授業力は、教科によって指導力にバラつきがあるように聞いております」(他 10 件)

A：教員にとって高い授業力は、もっとも求められる資質の一つです。現在、本校では年に 2 回の授業評価、お互いに授業を見せあって研修する月間（10 月）、指導と評価の一体化の研修等、組織としての授業力向上に努めているところです。また、学力が思うように伸びていない生徒に対しては、学力テストや定期考査の成績を参考に「基礎学力講習」を実施しています。さらに、お子様の学力向上には家庭での学習習慣の確立が不可欠です。学校でも週末課題や学習時間調査の実施とその状況把握に努めてまいりますが、保護者の皆さまにおかれましてもご協力をお願いします。

《生活指導に関するご意見》

「滝高の良いところは、生徒が自主的に考えて生活や学習について管理、実行するところだと思っていますが、このところの子供たちの様子を聞く範囲では、学校内での携帯の取扱いや服装、自転車のマナー等、乱れているようです。校則で縛るのではなく、自分たちの意志で律していける意志の強さを身に付けて欲しい。保護者自身も積極的に P T A 活動に係わっていきたいと思っています」(他 11 件)

A：昨年 8 月に実施した地域の方々（教育関係者・中学 3 年生とその保護者・小学 6 年生とその保護者等）を対象としたアンケート調査でも、滝川高校の一番の課題として「生活指導」が挙げられました。特に自転車の乗り方を始めとする交通マナーについては、命にも関わることで、来年度の生徒指導部の最重要課題として取り組むことになっています。また、「生活指導」は「学習指導」とともに進学実績を上げるための両輪であり、知・徳・体バランスの取れた教育活動を推進します。

《部活動に関するご意見》

「部活動を一生懸命する事はいいことだと思いますが、活動日や活動時間を、学習に集中できるように設定して欲しいです。テストの前日まで部活というのは避けていただきたいです。また、平日の部活終了時間もあやふやで、ミーティングや後片付けが長引き、最終のバスに乗れなくて、結局親が迎えに行くということが多すぎます。『残れる人は残っても良い』とか、『親が迎えに来るので遅くまで残れる』とかではなくて、必ず全員、最終のバスや電車に間に合うように帰す・・・と、できないものでしょうか」(他4件)

A：本校は「文武両道」もよき伝統になっています。現在、部活動と勉強を両立させるために学校としての指導体制の見直しを図っているところです。例えば、「基礎補習や進学講習を優先させる」「平日の部活動は原則として19:00までとする」「週に一日は部活動休止日を設定する」とし、進学校ならではの短い時間でより質の高い部活動を目指します。なお、定期考査中の練習につきましては「定期考査中または考査が終了してから5日以内に大会がある場合のみ」特例措置として部活動を認めています。

《生徒理解に関するご意見》

「先生方は多忙だと思いますが、生徒一人一人に気配りして頂けると大変ありがたいです」(他3件)

A：生徒指導では、「生活指導」とともに「生徒理解」が大切と考えています。特に青年期・思春期の多感な高校生はさまざまな悩みや迷いの時期でもあります。ご指摘の通り自己肯定感を高めることは大切であり、面談や観察による「生徒理解」を通して生徒の良さを引き出し伸ばす教育に努めます。また、個人面談を中心とした生徒一人一人に対するきめ細やかな支援を心がけます。保護者の皆さまもどんなささいなことでもけっこうですので、お気づきの点がありましたら遠慮なく学校までご連絡ください。

《滝高のミッションやビジョンに関するご意見》

「地域に対して『学校教育目標』は周知されていない。また、今まで地域の進学校として目標にされてきたが、近年では滝川高校の学力レベルの低下や魅力の低下により、札幌や旭川の進学校を受験する者や大学受験を考え、推薦入学の期待ができる他校への進学をする者も増加しており、地域の進学校としての位置付けも低下してきていると思われる。また、生徒の自主性を尊重するとしていますが、自由と、何をしても良いこととは違います。最低限の社会生活でのルールを守った中で、責任を持った行動が生徒には必要と感ぜます」(他3件)

A：滝川高校の学校教育目標は、「高い志を持ち、自己を創造し、真理を追求する心と未来を拓く力を育む」です。ご指摘の通り中長期的な視点で学校としてのミッション（使命）やビジョン（目指すべき学校像・生徒像）を明確化した学校経営が求められています。本校では、プロジェクトチームを立ち上げ平成30年度前後にある中卒生の激減期に向けた生徒確保の取り組みをスタートさせました。前掲の昨年8月のアンケート結果からは、圧倒的に「真の進学校」というミッション（使命）が期待されていることがわかりました。「真の進学校」とは、生徒の高い学力を育み第一志望の進路実現を図ることはもちろんのこと、繰り返しになりますが、知・徳・体バランスの取れた総合的な人間力を育み、地域の、日本の、そして世界のリーダーとなれる人材育成を目指す学校です。

この他にも、本校教育に対する高い評価や激励のお言葉も多数いただいております。また、回答しきれなかったものについては、本校ホームページに掲載いたしますが、それらも含めてご質問やご意見があれば、遠慮なく副校長または教頭まで、ご連絡をいただければ幸いです。

電話 0125-23-1114 FAX 0125-23-1115